

2015 年度秋学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	現代社会学部共通	科 目
-----------	----------	-----

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

この科目の既往のデータから見ても、Q4「授業時間以外の学習に1週あたりどれくらいの時間を費やしましたか」では、全学評点平均値より低い傾向があり、今学期も全学平均 0.70 (h/w) に対して 0.27 (h/w) であった。昨年度秋学期の 0.22 と比べると、増加が見られるが、さらに伸ばせるように工夫と努力が必要であろう。

昨年度秋学期と比較した場合、Q2・3・6・8はやや下がり、Q1・5・4・7・9はやや上がるという傾向を見せている。

一方、今学期のこの科目は、9項目中 Q 4・8・9をのぞく6項目で全学平均値を上回っている。

また、Q10のDWCLA10に関しては、「分析力」「思考力」「思いやる力」「自己管理能力」の4項目で全学平均を上回っている。残りの6項目は全学平均を下回っているが、「変化対応力」は 8.9 (%) で全学平均の 9.0 (%) とほぼ同じで、「自己実現力」は昨年度の 7.0 (%) から 10.4 (%) へ大きく伸びている。また、すべての項目において、昨年度秋学期からスコアは上昇している。

以上の検証結果をふまえると、この共通科目においては、学部共通の課題として、如何に授業時間以外の学習時間を増やすかがあげられる。昨年度秋学期の 0.22 (h/w) から増加しているとはいえ、全学平均も 0.67 (h/w) から 0.70 (h/w) に増加しているため、その差を大きく縮めるには至っていない。学生誰もが納得するゴールと成果指標をカリキュラム全体を通して、より明確に示せるよう努めなければならない。

しかし、Q4をのぞいて、他のほとんどの項目は全学平均を上回る、あるいは下回っても僅差であることから、授業そのものは概ね円滑に機能していると考えられる。

今後は、個々の教員の研鑽と努力によってさらなる改善がはかられていくことを基本としながらも、学部としては教員に FD 意識の向上を促し、研鑽のための環境を整えるといったことを通じ、いっそうの工夫が求められている。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。

教育・研究推進センター